

道徳科学習指導案

1 主題名 やさしくすると…

2 教材名 『はしのうえのおおかみ』（わたしたちの道徳1・2年 文部科学省）

※ 福島県教育委員会オリジナル紙芝居

3 ねらい

親切にしたときのきもちよさについて体験的に考えることを通して、他者に優しくすると自分も相手も気持ちよくなることに気づき、身近にいる人に進んで親切にしようとする心情を育てる。

4 授業改善のポイント

【ポイント1】 児童の思考をつなぐために、教材による学びを貫く構成にする。

【ポイント2】 気持ちを色に合わせて可視化したり、実際に演じてみたりするなど、一人一人の障がいの特性に応じて、学習活動を選ぶことができるようにする。

【ポイント3】 ねらいに対する一人一人の実態を指導者が把握し、個別の手立てを計画し、受け止めたり、考えさせたりすることができるようにする。

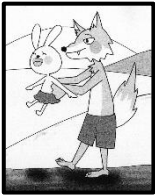
【ポイント4】 授業後の活動をいくつか想定し、児童の学びが持続する支援を講じる。

5 学習過程



学習活動・内容	○指導上の留意点 ☆個別の手立て ■評価（方法）
<p>1 他者に優しくできていないオオカミの姿から、本時の学びの視点をもつ。</p> <p>(1) 橋でウサギを追い返した時のオオカミの気持ちを考える。</p> <p>① オオカミの心の様子を色で表す。 (色を選ぶor 色をそめる)</p> <p>例 ・黄…楽しい ・赤…威張っている ・紫…意地悪</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>やさしくすると、 どんなきもちになるのかな？</p> </div>	<p>☆ 黒板の前に座らせる・必要な学習用具のみ手元に置くなど学習形態を配慮することにより、学習に集中できるようにさせる。</p> <p>○ 教材は紙芝居で場面毎に切って提示することで、視覚的に訴えるとともに、発問場面の状況に集中できるようにさせる。</p> <p>○ 登場人物の紹介を行い、内容に興味を持つことができるようにする。</p> <p>☆ 色で表すことに集中できるように、色カードや描材の提示を個別に行う。</p> <p>○ 色の根拠を問ひかけ、一人一人が捕らえたオオカミの姿を明確にさせる。</p> <p>○ 各自の考えがわかるように黒板に個人のカードを提示する。</p> <p>○ 他者に優しくできないオオカミの姿や気持ちを考えさせ、逆に優しくできたときにはどのような気持ちになるのかという本時の視点を投げかけ、本時の学びを自分事として捉える素地をつくる。</p> <p>○ オオカミの行動の変化に大きく関わる出来事であることから、このときのオオカミの気持ちを構造的に板書に位置づけ、優しくされたときの気持ちを捉えることができるようにする。</p> <p>○ クマがオオカミをどうするか予想させ、オオカミの気持ちを考えるきっかけを作る。</p>
<p>2 優しくされたり、優しくしたりするオオカミの姿から考える。</p> <p>(1) 橋でクマに渡してもらったオオカミの気持ちを考える。</p> <p>・自分と違う。かっこいい。 ・優しくされて、うれしい。 ・ぼくもクマみたいにしたい。</p> <p>(2) 橋でウサギを抱き上げて渡してあげた時のオオカミの気持ちについて考える。</p> <p>① オオカミの心の様子を色で表して考える。(色を選ぶor 色をそめる)</p> <p>例 ・ピンク…優しい心 ・虹色…心に虹が架かった ・黄…心が明るくなった</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>やさしくすると、 こんなきもちになるんだね。</p> </div>	<p>○ 色の根拠を問ひかけ、捕らえたオオカミの姿を明確にさせるとともに、1 (1) の色や根拠と比べさせて、オオカミの心の変化に気づくことができるようにする。始めの色と比較し、変えた理由、変わらなかった理由を発表させる。</p> <p>☆ 気持ちを考えることが苦手な児童には、紙芝居に描かれた表情を手がかりに考えさせる。</p>

<p>②役割演技をして確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 笑顔になる。 ・ オオカミもウサギもうれしい。 ・ ぼくも、うれしいな。 <p>3 自分はどのオオカミに似ているときがあるか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 意地悪しているオオカミ ・ やさしくしてもらったオオカミ ・ やさしくしているオオカミ 	<p>☆ 児童の学び方の特性を生かして、演じる児童を指名する。他の児童には、タヌキとキツネという役割を与え、集中して役割演技を見ることができるようにする。</p> <p>○ 演じる児童には、お面を被せ、演技の始めと終わりの切り替えができるようにする。</p> <p>☆ 演技を見ていた児童に気づいたことを発表させる。</p> <p>■ 状況や相手の気持ち等を踏まえて、他者に優しくした時の気持ちについて多面的・多角的に考えようとしている。(発表, ワークシート)</p> <p>○ 板書を手がかりに、自分の経験を想起させ、自分を見つめさせる。また、教師がエピソードを紹介し、子ども自身が気づいていない姿に価値付けをする。</p> <p>☆ 教師があらかじめ一人一人のエピソードを集めておき、それを紹介しながら、そのときの気持ちを話したり、友だちの姿を認め合ったりする。</p> <p>■ 人に優しくすることのよさについて、自分自身の生活や経験と比べながら考えている。(発表)</p>
<p>4 教師の説話</p>	<p>○ 教師が経験を語って聞かせ、親切な行動の形や思いが様々であることや、親切な行動のよさについて考えを深められるようにする。</p>
<p>〈授業後の活動〉</p> <p>A 一本橋遊び</p> <p>B 紙芝居を見て話す</p> <p>C 登場人物の絵を描く</p>	<p>○ 橋を渡してあげるオオカミや渡らせてもらったウサギになって遊んだり、話したりすることを通して、そのときの表情や言葉を再現させて本時のねらいにつなげる。</p>

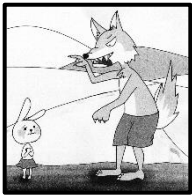
5 板書計画



やさしい
あったかい
にじがかかる

自分と違う かつこい
優しくされてうれしい
ぼくもクマみたいになりたい



たのしい
いばっている
いじわる

やさしくするとどんなきもちになるのかな？